

令和5年度第1回八雲総合病院運営検討会議 会議録（要旨）

開催日時 令和5年11月28日（火）14：30～16：00

開催場所 八雲総合病院講堂

出席者 委員：伊藤委員、大野委員、藤澤委員、安田委員、山田委員、
石田委員（院長）
事務局：竹内事務長、長谷川庶務課長、佐々木地域医療連携課長、
加藤医事課長、佐藤経理係長、前田経理係主査

傍聴者 無し

会議要旨

1. 開会（事務長）

事務局紹介

2. 挨拶

石田院長

3. 議事

（1）八雲総合病院運営検討会議設置要綱の一部改正について

庶務課長説明

質疑等無し

（2）八雲総合病院新経営強化プランの策定について

庶務課長が一括説明

1 経営強化プラン策定の背景

2 八雲総合病院の現状と課題

3 役割・機能の最適化と連携の強化

4 病院事業への一般会計負担の考え方

質疑等無し

5 医師・看護師等の確保と働き方改革について

委員：

外国人実習生の受け入れについて。

最近福祉施設でも実績が出てきているが病院としては実績があるのか。また、雇用条件はどうなっているのか。

事務局：

外国人の雇用については民間企業と連携し、来年4月を目標にミャンマーから女性の看護補助員を2名雇用する計画を進めている。

この数年、近隣に住んでいる方々から看護補助員の応募がほとんど無い状況である。

看護補助員の業務内容は、看護師の補助、入院されている方の身体介助、入浴介助、食事介助である。看護補助員がいることにより、看護師が専門的な業務に従事することができる。

現在、特定技能制度を使用した募集をかけている。この制度は5年間日本国内で就労することができる制度である。

日本語の適応状況、看護補助技術等を確認し、今後、人員を増やしていく計画である。

委員：

看護師確保については、福祉事業も苦勞している。人材紹介会社の紹介料は、経営の足かせになっている状況であるが、病院はどうか。

事務局：

看護師の確保が重要であり人材の確保が課題となっている。

近隣の高校から町外の看護学校に通う方へ、当院からの奨学金貸出制度があるが学年ごとに認知度に差が出てきているため八雲高校へ出向き進路担当の先生に説明するようにしている。

また、来年の4月から奨学資金を増額改定する予定。要因としては物価高や人件費の高騰で、時代の要請に応じて貸付金額を月6万円から10万円にする予定。

人材派遣会社は手数料が足かせになっているが、離職する看護師も多く、人員不足は医療提供体制が維持できないため、人材確保のためにも利用をしている状況。

座長：

看護師が少ないがために病棟を閉鎖している病院が近郊にいくつかある。

当院は道立江差看護学校から入ってくる人が比較的多いが近年入学者が少ない状況が続いている。実習生の数自体も減っており、渡島桧山地域では看護師のなり手が不足している状況が続いているのではないかと。

手数料のこともあるが、業務に支障をきたす可能性があり利用している状況。

6 経営形態の見直し

質疑等無し

7 振興感染症に備えた平時からの取組

委員：

コロナウイルスの今の感染状況はどうなっているか。

座長：

感染対策委員会の情報によると一旦減り、今はまた増えている状況。

増えたり減ったりしているのを繰り返している。今はインフルエンザが増えている。

コロナ陽性者の入院患者はいない。

事務局：

当院の令和5年度統計。10月末現在で一日平均陽性患者数は2.6人。

先週のコロナ陽性者は6名。インフルエンザは35名。インフルエンザの方が流行している。

8 施設・設備の最適化

質疑等無し

9 経営の効率化

委員：

キャッシュレス決済、マイナンバーの保険証システムについて、病院ではどのあたりまで進んでいるのか。

事務局：

キャッシュレス決済についてはクレジットカードが使用できる。交通系のカード、電子マネーの取り扱いはしておらず、将来的に需要があればシェアを広げていきたいとは考えている。しかし手数料がかかることもあり、慎重に考えていきたい。自動精算機を取り入れ、スムーズに清算を行えるようにしている。

マイナ保険証については一時期、取扱いについて不安の声も多かったが、現在は3割くらいの方が利用している状況。全国統一で提供されているサービスについては、可能な限り提供していきたいと考えている。

委員：

町からの繰入金について。

議会にも説明しおおむね了承いただいているものだろうと思うが、今後の見

通しはどうか。

今金やせたな等からの患者も多いと思うが、他町村からの負担金は望めないものなのか。

繰出金の見込みは数年後には結構な金額になっているが、ストップすると病院の経営は大変だろうし、病院がなくなってしまうと町民の利益にはならないが、どのように考えているのか。

事務局：

病院維持の為には町一般会計からの繰入金が必要な財源。病院の収支見通しについて毎年町議会へ説明し、予め示してから3月の新年度予算審議を行っている。町民が安全に生活するうえでのライフラインとなっていることを基本としているので、繰入金については担保されている。繰出金の財源については、国からの地方交付税も含めて財源としている。その点も踏まえて予算を作成し、要望している。決して楽観しているわけではない。

令和元年度決算以前は、特別繰入を受けていた。現在はコロナウイルス感染症関連の交付金により、内部留保資金が20億程度ある。当分の間は特別繰入を受ける状態は財政試算上ない。

各町からの負担金について以前から話題になっているが、実際それぞれの町でも病院を持っており、当町の患者割合が多いことを考えても負担金を他町へ求めるのは厳しい。大きな制度改正があれば追求したいとは考えている。

座長：

年を追うごとに赤字が増えている原因としては、過疎化もあるのではないかと考えている。旧八雲町と熊石町が合併した時点より、人口の3分の1が減っている状況でこれ以上収入を増やすのは難しいのではないかと考えている。近郊でも過疎化が進んでいる。今は新幹線のトンネル工事等の関係で患者は増えているが、工事が終わった際には減っていくのではないかと考えている。

医師側については医局制度がなくなったことにより、医局に入る人が少なくなり、医局からの派遣が少なくなった。必然的に大きな病院に医師が集まってしまったため、出張医で賄わなければならない。出張医は常勤医より費用がかかるが、入院患者の対応は行わないため、入院患者が減っている状況。医師としても厳しい条件が続いている状態。

添付資料1. 収支計画

委員：

医業外収益欄の国の補助金は、コロナ病床の補助金なのか。

デジタル化にもかかわるが、オンライン診療が進んだ時に医業収入はどうなっていていき、それにより収益は増えるのか。患者の来院回数は減ってしまうのか。

座 長：

まず、器材をどうするかという問題がある。方法についても検討が必要。常勤医師が増えないとなかなか難しい。ただ移動手段がない高齢者も増えているため、オンライン診療については今後進めていかなければならないと考えている。

事務局：

オンライン診療を導入する医療機関は今後増えていきそう。ネックなのが高齢の方のみで暮らしている場合。スマートフォンやパソコン等の操作ができることが前提になるため、常時利用している方もいると思うが、操作が難しい方もいるのではないかと問題がある。

通常診療、オンライン診療を分けて診療している医療機関が多い。医師としては対面で診療したいという考え方があるのではないかと思っている。診療科によってはオンライン診療だと難しいものもあるため、主には内科の慢性疾患や投薬をしながらの経過観察程度の診察になるのではないかと考えている。他の医療機関と確認しあいながら今後進めていきたいと思っている。

4. その他

質疑等無し

5. 閉会

以上